

# 三浦一族史跡マップ



「三浦大介義明像」  
満昌寺  
(横須賀市)

## 三浦半島に 三浦一族を 訪ねる



「阿弥陀三尊像」浄楽寺(横須賀市)

### 三浦一族ゆかりのイベント

#### 三浦一党出陣武者行列

衣笠を根城に鎌倉幕府創建に大きな役割を果たした三浦氏を偲び、衣笠さくら祭の際に隔年で行われています。

鎧甲冑に身を包んだ武者達が、衣笠駅前通りを練り歩く様子は勇壮に見応えがあります。

【実施】隔年4月下旬 **Map H-8**

【場所】JR衣笠駅前通り

【問合せ先】衣笠観光協会

(電話 046-853-1611)

#### 道寸祭り～笠懸(かさがけ)



平安時代から戦国時代に至るまで、約450年に及び三浦半島中心に栄華と盛衰の歴史を繰り返してきた三浦一族は、1516年に新井城で北条早雲に攻められ、滅亡します。

三浦一族終焉の地となった油壺での3年にも及ぶ壮絶な攻防戦と悲話、現在も多くの人の心を打ちます。「道寸祭り～笠懸」は往時の武者たちの勇壮さを偲ぶことができます。

【実施】5月最終日曜日 【場所】油壺荒井浜海岸 **Map E-13**

【問合せ先】三浦市観光協会 (電話 046-888-0588)

#### 【観光ボランティアガイド】

横須賀 NPO法人よこすかシティガイド協会  
電話 046-822-8256 URL <http://yokosuka.kankoh-guide.com/>

鎌倉 NPO法人鎌倉ガイド協会  
電話 0467-24-6548 URL <https://www.kcn-net.org/guide/>

三浦 みうらガイド協会  
電話 046-888-0588 URL <https://miuraguide.jimdofree.com/>

【原案・監修】鈴木かほる(三浦一族研究会特別研究員)

【協力】三浦一族研究会・NPO法人よこすかシティガイド協会・みうらガイド協会・横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町・(一社)横須賀市観光協会・(公社)鎌倉市観光協会・逗子市観光協会・(一社)三浦市観光協会・葉山町観光協会  
なお、記載内容には、伝承等や異説のある事項を含んでおります。

【編集・発行・問合せ先】

神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター商工観光課

〒238-0006 横須賀市日の出町 2-9-19

神奈川県横須賀合同庁舎

電話 046-823-0433

【制作・印刷】株式会社アド・マインド

(2022年(令和4年)9月発行)

### 三浦一族とは

平安末期、武士の台頭により、東国に多くの氏族が誕生します。その一つ、源家累代の家人となる「三浦一族」は、いつ衣笠城を本城としたのか不詳ですが、『吾妻鏡』では、三浦義村は、義祖為繼が三年の役※で源義家に従って以降、その恩禄を賜る累代の家人であると語っており、この為繼は『奥州後三年記』に三浦氏として初めて登場します。この為繼の子義継以降、義明、義澄、義村と源義家の「義」を通字とし、源氏との絆を深めていきます。  
※後三年の役(1083~1087)は、源義家が奥羽の清原家衡らを平定した合戦です。

### 【鎌倉幕府成立のころ】

#### 衣笠城合戦

1180年、源頼朝が伊豆で挙兵します。

三浦一族は、頼朝勢に合流しようと衣笠城を出陣しましたが、暴風雨により出陣が遅れ石橋山合戦に間に合わず、頼朝の敗走を知り、衣笠城に引き返すこととなります。

このとき平家方が攻めたのが衣笠城合戦です。『吾妻鏡』によれば、戦況に利あらずとみた三浦一族の惣領、三浦大介義明(年齢89)は、「老命を頼朝に投げうち、子孫の勲功に募らんと欲す」と諭し、義澄らを闇夜に乗じて城から脱出させ、自らは翌早朝に河越重頼らに討たれました。

義明は、自らが頼朝の捨石となる代わりに、源氏再興の晩には子孫が要職に就くことを暗に頼朝に願ったのです。

衣笠城を脱出した義澄らは、怒田城(現在の久里浜あたり)から安房(千葉県)へ向けて船を出し頼朝と合流します。この1か月後、頼朝は大軍を率い鎌倉入りを果たし、義明の願い通り三浦一族を重臣として重用していきます。



衣笠城址古図(満昌寺)



衣笠城址の碑



三浦大介義明廟所(満昌寺)

#### 【登場人物その言】

##### 三浦大介義明

みうらおすけ よしあき  
(1092~1180)

為通から数えて4代当主。源頼朝挙兵時の三浦一族の棟梁。自らの命と引替えに、一族の隆盛の礎となった人物です。満昌寺にほぼ等身大の木造があり、老将の風格を伝えています。(表紙写真)

いちのたに ひよどり

#### 一谷合戦と鶴越えの逆落とし

『平家物語』がとりわけ目覚ましい活躍として書き立てているのが、佐原義連の一谷における鶴越えの逆落としです。

平氏が一谷城(現在の神戸市)に布陣していたとき、なかなか勝敗がつかず一進一退を繰り返す中、城北の搦手に廻った源義経は、軍勢に驚いて次々と一谷の搦手へ落ちていく大鹿たちをみて馬を断崖から落としてみると、足を打ち折って転び落ちる馬もありましたが、うまく駆け下りる馬もありました。「心得て行けば損じることはない」との義経の掛け声に皆次々と駆け下ったのですが、ここぞという所で、苔むした大磐石の釣瓶落としの絶壁となり、さすがの義経もたじろいだそのとき、佐原義連が進み出て、「このような所は我らの本拠三浦では、鳥ひとつ射るにも朝夕、馳せ廻っている馬場である」と言って真っ先に駆け下り、これにつられて、皆、えい、えいと声をあげ、一気に一谷城の背後になだれ込みました。不意を突かれた平氏はあわてふためき、先を争って須磨浦に助け船を求めたと伝えられています。

この話が事実なら、義経の策である逆落としの奇襲を成功へと導いたのは佐原義連ということになります。他の人物だったという説もあるのですが、いずれにしても義連は『平家物語』の中に鶴越えを先駆けた騎馬の鍛錬者として紹介され、後世に名を残した武将なのです。



#### 【登場人物その式】

##### 佐原義連 さわらよしつら(生没年不詳)

義明の末子。一族の中でも、三浦宗家(本家)に次ぐ地位にあったといわれます。その城は横須賀市佐原にあり、「佐原十郎義連城跡」の碑が残っています。義連は、源頼朝が三浦を訪れた際、馬上で会釈した上総介広常を諫めたり、三浦義明の弟岡崎義実が頼朝から水干(当時の衣類)を賜った際、その美服は自分が拝領すべきとして口論に及んだ広常を諫めました。しきたり等に詳しく、八幡宮で静御前が舞う舞台を即興で設けるなど、多彩な才能を披露し、頼朝の信任を得た人物でした。

#### 【ゆかりの場所 その壱】

まんしょうじ **Map I-9**

##### 満昌寺

源頼朝が源氏再興の捨石となった三浦大介義明を弔うため建立したと伝えられています。頼朝は義明の十七回忌に列席し、義明の霊に「身は果てても今日まで共に生きています」と語ったとされることから、義明の享年89に17を加えた106歳という数え歌が「鶴は千年、亀は万年、三浦の大介百六つ」という祝い詞となり、広く流布しました。



本堂裏の御霊社は和田義盛の建立といわれ、義明を神格化した衣冠束帯の鎌倉期作の坐像(国指定重要文化財)が祀られています。

【拝観】要予約(拝観料300円、小学生以下無料)

【問合せ先】電話 046-836-2317 横須賀市大矢部 1-5-10

【行き方】京急北久里浜駅から「大矢部・新岩戸団地循環」バス停「大矢部3丁目」下車徒歩10分

### 【鎌倉幕府で大活躍】

#### 【登場人物その参】

##### 三浦義澄 みうらよしずみ(1127~1200)

義明の次男で嫡子。父義明の死により、家督を継ぎます。衣笠城合戦の後、頼朝と合流して、やがて鎌倉に入ります。頼朝が、後白河院から上洛を促され、福原(現在の神戸市)の平清盛を攻めようとした際に、まず東国固めが肝要と献言。これにより頼朝は鎌倉に留まり、西国へは弟の義経や範頼を派遣しました。1190年の頼朝の上洛には武家の筆頭格として供奉しています。

#### 三浦義澄の名譽

1192年7月、源頼朝の征夷大将軍への任命の文書(除書)を、勅使から受け取る役を命ぜられた三浦介義澄は、鶴岡八幡宮若宮にて、御家人らの羨望を集める中、膝行して文書を受け取り、これを乱箱に入れ、腰をかがめ恭しく頼朝に奉りました。このときの様子を『吾妻鏡』は「千万人の中に、義澄、この役に応じ面目絶妙なり」と記しています。これにより義澄は、幕府の御家人筆頭の地位を諸国に広く知らしめたのです。

義澄が選ばれたのは頼朝挙兵の捨石となった父義明の功績に報いられたということもありますが、義澄は「8か国に聞こえたりし弓矢とり」であり、沈着冷静な人物であったと思われる、大役に相応しい風格が備わっていたとも考えられます。

#### 三浦一族の全盛期

義澄の跡を継いだ義村は、相模、河内、紀伊、土佐の守護や御殿別当、評定衆を歴任し、娘(矢部禅尼)を執権北条義時の嫡子泰時に嫁がせ外戚となり、執権義時の亡き後は幕府を左右する政治力を持つ存在となりました。

この頃、三浦一族の国司・守護や地頭職にあった地域は、北は陸奥国(青森県、宮城県、福島県、岩手県)から南は肥前国(佐賀県、長崎県)、大隅国(鹿児島県東部)、筑前・筑後国(福岡県)と、全国に及び、その勢力の大きさが窺えます。

しかし義村は、一族の中で大きな勢力を持っていた従兄弟の和田義盛と和田合戦で敵対し、和田一族は滅亡します。

#### 【登場人物その四】

##### 三浦義村 みうらよしむら(生年不詳~1239)

三浦一族全盛期の当主。執権や公卿の姻戚となり、特に娘婿中納言二条俊親を都とのパイプ役に使うなど、三浦氏を北条氏と並ぶ家格に押し上げました。また、承久の乱後は、戦後処理のため都に留まったことをみても、政治的能力が備わっていた人物と思われる。一方、謀略の者と評されることもあり、義村の墓は、三浦海岸の金田湾近く、丘の上の福寿寺の塔頭(子院)だった南向院跡に五輪塔が残っています。

#### 【ゆかりの場所 その貳】

まんがんじ **Map I-10**

##### 満願寺



木造観音菩薩立像(満願寺)

佐原義連開基とされ、鎌倉初期創建と考えられます。境内から出土した古瓦に、源頼朝が建立した鎌倉永福寺や鶴岡八幡宮から出土したものと同類のものが含まれることから、三浦義明を追善するために頼朝が発願した供養堂ではないかという説もあります。

国指定重要文化財の観音菩薩立像と地藏菩薩像は、2mを超える像高、玉眼を用いた意志的な面相、量感に富む堂々たる体軀

が見る者を圧倒します。観音菩薩立像と浄楽寺阿弥陀三尊像の両脇侍との共通性から、運慶または運慶工房のものと考えられます。

後に、義連の子家連が、梵宇(寺)供養のため京都泉涌寺(皇室ゆかりの寺)の開山後仍を三浦の館に招いています。都から高僧を招くことができたその財力が偲ばれるエピソードです。

【拝観】要予約(拝観料300円)

【問合せ先】電話 046-848-3138 横須賀市岩戸 1-4-9

【行き方】京急北久里浜駅から「大矢部・新岩戸団地循環」または「YRP野比駅行き」バス停「岩戸」下車徒歩5分